

生活クラブ×風車×にかほ市

■院内風車「千颯（ちはや）」竣工

5月24日、院内地区に建設していた大型の風力発電「千颯」の竣工式が開かれました。この風力発電事業は、13年前に芹田に建てられた風力発電「夢風」と同じ首都圏の生活クラブグループが設立した一般社団法人グリーンファンド秋田によって運営されます。あわせて、今回の竣工式ではコロナ禍で開催できないでいた「夢風」10周年記念も同時にお祝いしました。

■「地に足をつけた地域間連携」

今回の夢風10周年を記念して同社が発行した記念誌『にかほの風でつながる。希望の未来をつくる。』から、風車の建設から現在に至るまでの生活クラブ組合員の方々の葛藤や想いの変遷を知ることができます。

当初、組合員の中には風車による発電事業の取組みに対する懐疑的な声が相当数ありました。「生活クラブの活動は食に対して作ること・消費することをメインに活動してきたのに、なぜエネルギーなのか。しかもなぜ風車なのか」といった声です。

そんな空気を変えたのは福島原発事故でした。組合員の間に「エネルギーのことについて自分たちで考えなければならぬ」といった意識が広がり始め、頻繁に学習会が行われるようになっていきました。そして、その学習会において原発や自然エネルギーについて議論が交わされる中で、主要テーマとなる「生産され

たエネルギーを首都圏で暮らす人々が使用し、地元で負荷をかけるだけであってはならない」、「電力を供給する地元の人たちと、電力を使用する首都圏の消費者の人たちとの関係性こそが大事」という基軸が確立されていきました。いわゆる「対等互恵」の考え方です。

そして今、この「対等互恵」の考え方は、平成25年に生活クラブとにかほ市が発表した「持続可能な自然エネルギー社会に向けた共同宣言」内に、「地に足をつけた地域間連携の仕組みこそが、現代社会を持続可能なものにする」という文言でしっかりと表現されています。

■地域間連携の具体的な取組み

夢風を軸にしながらか進められてきた生活クラブとにかほ市との地域間連携では、①交流事業、②夢風ブランド開発活動、③夢風ブランド共同購入、④にかほの物産の共同購入、⑤農産物取組み、⑥市エネルギー基金協力金、⑦固定資産税、⑧土地貸付金など、さまざまな取組みが行われています。そして、年間約3千5百万円前後、令和5年までの11年間では総計で3億円を超える直接的もしくは間接的なお金をいただいております。市はこのお金を使って学校のイス・机・電子黒板を購入したり、子どもたちの食育にかかる事業を実施したりしています。

また、②から⑤にあるように、市内の農産物や商品を首都圏の生活クラブの店舗で販売するだけでなく、市内事業者と生活クラブとで夢風ブランドを立ち上げ、

新商品を開発し、同店舗で販売するなど、新たなビジネス機会の創出も行われています。

■親戚みたいな関係

生活クラブとにかほ市との地域間連携の中でもっとも特徴的なのは、夢風が立地する芹田自治会と生活クラブとの緊密な交流です。

なぜ生活クラブは初めての風車をにかほ市芹田に設置したのか。県内外にいくつかの候補地があった中で、芹田地区が選ばれた決定的理由は、にかほ市の地域柄、特に芹田の皆さんの親しみやすさが、生活クラブの皆さんに「共に歩いていく」と感じさせてくれたからです。地元の人たちが「親戚みたいな関係」と表現するこの親しみやすさは、生活クラブが目標とする「電気と消費財を地域と連携しながら生み出し続ける」を実践するのうってつけだったのだと思います。

この芹田地区を起点にした生活クラブの取組みは先進的事例として新聞などで県内外に紹介されています。この関係が新たに風車が建設された院内地区だけでなく、教育現場を含めた市内全体にさらに広がっていくことに期待をしているところです。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

